

課 題	検討項目と取組の方向案	取組時期	
		H28	H29以降
1. 標準テキストの作成・更新	<p>(1) 次年度に向けたコースの見直し（知識体系の整理）</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 次年度の有明の丘研修第1期に向け、防災スペシャリストとして身につけるべき「知識体系」の全体像を整理したうえで、コースを見直す。 <ol style="list-style-type: none"> 第5回～第7回の企画検討会で、知識体系について検討する。 第7回企画検討会で、次年度の研修のコースやコースの内容を見直す。 ※第4階層の見直しに伴い、標準テキストも見直す必要がある。 	●	
	<p>(2) 単元「総論」の標準テキストの作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 有明の丘研修の1限目「総論」において、コースの組み立ての考えやカリキュラム内容について説明するためのスライドを「総論」の標準テキストとする。 ⇒ 資料1-2参照 	●	
	<p>(3) 第5階層の標準テキストの作成</p>		●

「有明の丘研修等」に関する課題について 2/3

課 題	検討項目と取組の方向案	取組時期	
		H28	H29以降
2. eラーニングの実施に伴う「有明の丘研修等」のあり方	<p>(1) 「防災基礎」コースの単元構成や内容の見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「防災基礎」の法律や計画、メカニズムなどの単元は、eラーニングで学ぶことに適している内容だと思われるため、現在の「防災基礎」の単元の多くはeラーニングで学ぶことを基本とし、コースの単元や内容を検討する。 <p>(案)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 反転授業等を用いたより効率的・効果的な授業を行う ● 1日程度に短縮する ● コースを新設する <p>(例) 【実践コース】 スクーリング(お悩み相談)形式のコース</p>		●
	<p>(2) 「地域別総合防災研修」を強化・充実するための方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「地域別総合防災研修」の研修内容の質の向上や受講者数の増加等、強化・充実の方法を検討する。 <p>(案)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● eラーニングと組み合わせたり、地域別研修で学ぶ内容を「防災行政概要」を中心とした防災基礎コースの縮小版とするなど研修内容を見直すことで、1回あたり1日(5単元)、1ブロックあたり2回実施する ● 反転授業等を用いたより効率的・効果的な授業を行う ● 将来的には、地域の大学(防災・危機管理センター等)と連携することで、授業内容や回数等をより充実させることができるのではないか 		●

「有明の丘研修等」に関する課題について 3/3

課 題	検討項目と取組の方向案	取組時期	
		H28	H29以降
3. 人的ネットワークの構築の仕組みの具体化	(1) 修了者に対する情報提供 <ul style="list-style-type: none"> ● メーリングリストにより防災に関する情報の提供を行う。 	●	
	(2) 「有明の丘研修」修了者の人的ネットワーク化 <ul style="list-style-type: none"> ● 「有明の丘研修」修了者のネットワークを構築し、交流を活性化してはどうか。 ● ネットワークで、どのような活動ができるとよいか。 ● ネットワークを運営する組織はどのように構築するとよいか。 ※事務局体制含む。継続的な活動が実施できる体制が必要 等		●
4. 能力評価の仕組み	(1) 「個人の能力評価」を実施するための方法 <ul style="list-style-type: none"> ● 有明の丘研修で実施する「確認テスト」を、研修の修了条件とするか。 等		●
	(2) 「組織の能力評価」を実施するための方法		●
5. 継続・安定して実施するための研修企画運営体制の整備 ◎現状の有明の丘研修の運営体制を、将来に渡り維持することは困難と想定	(1) 研修の企画運営体制のあり方 <ul style="list-style-type: none"> ◆ 「研修指導要領」、「標準テキスト」が概ね完成した後の研修実施体制として、都道府県や大学と連携して研修を実施していくこと等も想定し、必要な準備を進めていくための検討が必要。 (適切な研修の企画運営主体者への移管等)		●